



地域に誇れる
学校づくりを
みんなで
話し合おう

2014.4.8 発行

発行・お問合せ／和光市教育委員会事務局学校建設準備室 〒351-0192 和光市広沢1-5 電話 048-424-9144 FAX 048-464-7901 編集・ワークショップ運営／株式会社 松田平田設計

はじめに

前回のふりかえり

第1・2回ワークショップをもとに各テーマのニーズ・課題から意見傾向をふりかえりました。

グループ A・B・C 共通

- ①複合化におけるコンセプト → 「異世代交流ができる地域コミュニティの核となる施設」
 - ②複合化における課題 → 「学校と複合化した際の児童の安全管理をどうするか？」
- これらを踏まえ、各テーマの具体的な活動・管理のしくみを考えました。

ワークショップ ①

各テーマで異世代交流の場とするには具体的にどんな活動・シーンがあると良いか？

グループ A

図書館分館

【談話の場】

- ・館内に談話できるコーナーを設置し、相談しながらの勉強や休憩ができる
- ・館内の屋外テラスで本が読め、地域住民が情報交換を行える

【学習の場】

- ・学習スペースで中・高校生と児童が共に学び、教え合える
- ・児童の調べ学習の場として利用し、父母が授業参観できる
- ・児童館事業で図書スペースを気軽に利用できる

【ふれあいの場】

- ・高齢者が児童にボランティアで読み聞かせ会や紙芝居を行える
- ・障害者が参画したコーヒーショップを併設し障害者とふれあえる
- ・近隣の保育園園児と学校児童とが交流できる

グループ B

児童館・保育クラブ

【多目的室】

- ・音楽室としてミニコンサートを児童とともに楽しめる
- ・図工室として高齢者の指導で工作づくりを行える
- ・家庭科室として児童と調理教室を行える

【屋内運動場】

- ・地域の劇団やマジック演者の演技発表会を行い、幼児親子や児童がともに楽しめる
- ・幼児サークルを行い、学校児童とふれあえる
- ・中・高校生がリーダーになって児童に遊びやスポーツの指導を行い、ともに楽しめる
- ・児童館事業で障害者とのふれあい交流を行える

【グラウンド】

- ・グラウンドを活用することで、異世代間のスポーツ交流事業ができる
- ・学校菜園で畑づくり、収穫体験等の児童館事業が行える
- ・グラウンドを活用することで、児童対象の防災・防犯訓練の実施ができる

グループ C

市民広場・パークアベニュー

【市民広場】

- ・朝の体操などの健康促進イベントを行える
- ・地域住民が散歩の後に休憩ができる
- ・自治会や婦人・老人会の活動行事を行える
- ・木かげの読み聞かせ会、お話し会を行える
- ・模擬店を設営し、地域のお祭り行事を行える
- ・市民広場側の多目的室を開放し、内外一体型の屋外ステージ演奏を行える
- ・児童館や図書館分館が主催の祭り行事を行える
- ・児童館に遊びに来た親子がベンチで昼食を食べられる

【パークアベニュー】

- ・水辺のあるピオトープを活用した体験学習を行える
- ・パークアベニュー沿いに運動できるベンチや器具があり、運動ができる
- ・和光市 農業体験センター・アグリパークと連携し、児童とともに植栽維持管理を行える

異世代交流により地域が学校（児童）とともに何ができるかを意識して話し合いました！

ワークショップ ②

異世代交流の活動を実現するにあたり、児童の安全を確保した管理のしくみを考えよう！

グループ A

- ・学校と連携した運営の在り方が望ましい
- ・学校、地域をつなぐ統括的な運営主体が望ましい

グループ B

- ・児童館と保育クラブは同一の管理主体が望ましい
- ・学校、地域を包括した運営委員会の設置があると望ましい

グループ C

- ・パークアベニューの防犯パトロール等、地域住民の協力を促すしくみが必要
- ・複合ゾーンの利用を中立的な立場で管理する中立的な調整役がほしい



次回はいよいよ最終回！

児童の安全で楽しく、豊かな学習環境を創造するためには地域の力が必要

学校と地域を含めた包括的な管理運営の在り方をさらに考えていきます！